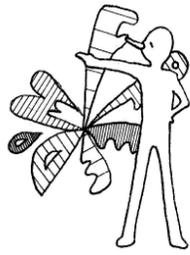


Freedom



高校生の人権広報誌

“Freedom” 第4号

2010年10月11日発行

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめよう日」

体験と交流の夏、活動と発表の秋 — “Freedom” に集おう！



鶴橋ユリアンタウン研修会

大宇陀高校のスタッフが、学校での研修会をレポートしてくれました。



私は昨年七月三十日に鶴橋ユリアンタウンの現地研修会にヒューライツ部のメンバーとして参加しました。私は「コリアンタウン」の存在すら知らなくて、本当にこの研修会では驚くことばかりでした。午前中は鶴橋の駅周辺を探索。チマチョゴリなどの民族衣装店の色鮮やかさには感激しました。また、雑貨や食料店を見て、文化を感じ取る事ができました。鶴橋は、電車から降りた時からすでに雰囲気違って、一言で言い換えるなら「にぎやかな街」です。次にメインとなる御幸森神社や百済門のあるコリアンタウンに行

って商店街を歩きました。そこではキムチやチヂミなどの韓国などではおなじみの食品が置いてある店がたくさんあり、日本にはないような食文化を目で見て感じとれ、試食も、とても新鮮に感じました。その後、先生が「異文化交流の家」へ案内してくれました。見た目はお土産屋さんなんです、そこでは韓国のお茶も飲むことができ、とても感動しました。私が一番驚いたのはお茶を頂いた場所が韓国の一般家庭のような風景だったことです。その店では



あたかも「そこに住んでる」ような気分させてくれたりします。お昼は先生が焼き肉をごちそうしてくれたりしてとても楽しい研修で、自分の国とは違った物を学び、感じることができ素晴らしい研修でした。

第一回 高解研 研修交流会 桜井市で開催！

今年一回目の高解研の研修・交流会が、六月二七日（日）に桜井市中央公民館で、五校十三名が参加して開催されました。

当日、午前中はネット、ケータイ、裏サイトなどについてのビデオを見たり、質問についてみんなで考えたりして研修をしました。その後、グループに分かれて、カレーを作り、ナンを焼いて、昼食としてみんなで食べました。作るのは大変でしたがすごく楽しかったです。他校の人との混成のグループでしたが、各グループともチームワークもばっちりだったと思います。

午後からは、各校の解放研や人権クラブの活動の交流をしました。人数の多いところ、一人で活動しているところと様々でしたが、それぞれ工夫して活動している様子がわかりました。

（奈良情報商業高校スタッフ）

高解研 夏期研修会 参加体験記

大阪府にある大阪人権博物館（リバイおおさか）で七月二五日（日）、高解研夏期研修会が開かれました。午前中、私たちは「渡辺村」についてフィールドワークを兼ねて勉強しました。

「渡辺村」とは近世・近代と皮革生産がさかんである一方、死牛馬の皮を扱うことで被差別民という差別を受けた村です。古くは大阪城の周辺に位置していましたが、強い差別を受けながら、立地の悪い旧十三間堀川（じゅうさんげんほりかわ）付近に約三〇〇年前移されました。私達は実際に渡辺村の外柵をぐるっと一周してみました。現在は大きな団地となっているこの地域ですが、大阪・市中と渡辺村をつなぐ道は一本だけしかなかったという厳しい状況も伺えました。しかし、皮革生産がさかんなこの村は太鼓が有名で、バス停も太鼓にちなんだモチーフになっていました。戦中は武器作りに大きく貢献し、わざわざ地方から注文が入るほどのブランドになりました。また、一七世紀に大阪城の時太鼓をつくった平八を祖先とする太鼓屋は、一九世紀に活躍した太鼓屋又兵衛によって皮革問屋としての地位を築き、鳥取城の時太鼓を作り、それは国の重要文化財となっています。現在は、太鼓屋又兵衛の広大な屋敷跡は玉姫公園となつて残っています（写真）。

の太鼓屋がこの地域には残っているそうです。太鼓の職人は武器を作る職人でもあり、その重要性から時の為政者により逆に差別を受けてきた歴史がありますが、この地域の若者たちは差別に立ち向かうためにも太鼓の演奏家として立ち上がり、演奏活動を続けているそうです。



午後四つのグループに分かれ、それぞれのグループが、障害者、アイヌ民族、在日コリアン、HIV感染について、展示を見て学習しました。私はリバイ大阪の展示学習で、在日コリアンについて学びました。日本が勝手に朝鮮を支配し、財産や土地を奪い、日本に徴用された結果、視力をも奪われてしまった方がおられることを知りました。日本はコリアンにひどい仕打ち『植民地支配』をしてきたことを知りました。今でもその名残があり、いわれない差別を受けたいために、在日コリアンの方は自分の名前を隠して生活している方もいらっしゃるそうです。

そして、最後に全体で、在日コリアン、障害者、アイヌ民族、HIV感染の各テーマについて、みんなで話し合いをしました。

私たちはみんな同じ人間で、人として同じ権利を持っているはずなのに、差別をすることは恥ずべき行為です。私は一日も早くこの現状に気付き、みんなで何か行動すべきだと思います。

（高田商業高校 Y）

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。

昨年の8月、僕は長崎で開かれた全国高校生集会に行ってきました。全国高校生集会とは、全国各地の被差別部落に住む高校生、つまり、「部落民」の高校生が集まり、自分たちの考え、活動などを話し合い、深めあうのを目的とした集会です。僕の父と母は被差別部落出身で、その子どもの僕も「部落民」です。僕はこのことをものごころがついた時から知っていましたが、集会に来ていた人の中には、それまで「部落民」を差別していたのに、自分が「部落民」だと知って、あまりにもショックで自殺しようとした人もいました。全国から集まった1000人を超えるたくさんの仲間との話し合いは、僕にとってとても新鮮なものでした。

集会は3日間にわたって行われ、1日目は長崎の話を書きました。長崎では1945年8月9日の原爆投下により、「部落民」はいつそう差別を受け、ひどい生活に追い込まれました。その差別というのは、原爆投下の際、「部落民」は医者に診てもらうこともできず、ほったらかされて土に埋められ、上からコンクリートで道を造られたというものでした。平気で人を土の中に埋めて、その上から道を造ることがなぜできたのだろうかと思いは思いました。なぜ、僕たち「部落民」はそんなひどい、人間らしくならぬ仕打ちを受けなければいけなかったのでしょうか。僕は、僕たち「部落民」も「部落民」でない人達も、自分の言っていることと、やっていることが果たして本当に正しいのか、もっともっと考えるべきだと思います。お互いが手を取り合っ

て話し合えば、お互いがもっと生活しやすくなると思います。2日目は朝の7時から、夜の9時まで話し合いが続きました。その中で、高校3年生のAさんが自分の経験を話してくれました。Aさんの話は、「差別をされるのが嫌なために、自分も差別

をしていた。」というものでした。中学の時、放課後に希望者が集まって人権について話し合うという活動が行われ、Aさんはその活動に参加したかったのですが、もし参加すれば自分が「部落民」とバテて差別されるかもしれないので、周りの友達と一緒に参加者を白い目で見ていたのです。しかし、差別するのはとてもつらく、学校に行かなくなったというものでした。

僕は、自分のことは出来るだけ隠さないでいようと思っています。それでもやはり言うのには少し躊躇(ちゅうちょ)します。やはりそれだけ「部落民」という肩書きは僕たちにとって重たいものとなっています。僕達は一生この肩書きを背負います。また、結婚することによって、相手や子どもにもその肩書きを背負わせることとなります。そして、その肩書きは部落差別がなくなる限り一生背負わなければなりません。僕はそのことが耐えられません。自分の大切な人が自分のせいで不幸な目に遭うなんて、考えるのも嫌です。だから、僕はなんとしても部落差別をなくさないといけないと思っています。

3日間の中で僕が学んだことは、「差別は今でもなくなっていない。」ということです。奈良県は水平社始まりの地でもあるので部落解放運動が進んでいて、差別に関わることが少なく、差別を受けることも今までほとんどありませんでした。しかし、他県では友達と遊ぶことや、学校に行くことさえもままならないほどひどい部落差別が起こっています。差別は、される方は怖くておびえなくてはいけないし、する方にも嫌な気持ちを引き起こします。する方もされる方も両方が嫌な思いをする部落差別を早くなくしていきたいと思っています。

※ 全国高校生集会は、1969年にはじまった「部落解放奨励学生全国集会」を前身とし、差別と向き合い、差別をなくそうと頑張る若い世代の交流の場として、毎年各地で開催されています。また、この作文の中の「部落民」という表現は筆者が学習を深めているからこそその表現です。あえてそう表現したその意味も、皆さんに分かって欲しいと思います。

ﾌﾟﾙﾀﾌﾞ回収 車椅子寄贈運動とは？

*** 奈良情報商業高校スタッフより ***

みなさんは、日常何気なく飲まれている缶ジュースや缶コーヒーなど飲料缶の飲み口部分(プルタブ:アルミ製)で、車椅子を贈れることを知っていますか？

車椅子などを贈るために飲料缶のプルタブを集めることをプルタブ回収といいます。プルタブ1個の重さは0.4gです。

プルタブをどのくらい集めれば車椅子1台を贈れると思いますか？

プルタブを200万個程度(アルミ資源800kg相当)で車椅子1台寄贈できます。

ここで豆知識、1983年にラジオ番組で、飲料缶のプルタブを集めると車椅子に換えることができるという話が、全国的にひろまったといわれています。

みなさんは、なぜアルミ缶のフタを集めるのか理由を知っていますか？

1つめの理由は、缶本体から切り離され、ゴミとしてポイ捨てされ、散乱しやすかったこと

2つめの理由は、アルミは、スチールに比べて、引き取り価格が高価であったこと

3つめの理由は、缶全体を集める場合と違って、洗浄などの必要がなく、かさばらず、気軽に集められること

以上の理由です。(もちろんアルミ缶本体の回収もあります)

私たちの学校では、車椅子を贈るためにプルタブ回収をしています。ふつうに車椅子を買うと、6~7万円ぐらいします。みなさんが、飲んだ後の缶を捨てないで、プルタブ回収に協力してくれれば、小さな力が大きな力になって車椅子が贈れるので、ぜひ協力してください。

協力してくれる方は、奈良情報商業高校の人権クラブまで連絡してください。

(電話:0744-42-4014 人権クラブ顧問の村嶋先生、藤岡先生)

編集後記

◆フリーダムも第四号を数えることになりました。今年度の編集スタッフは、奈良情報商業高校・高田商業高校・郡山高校の三校、十二名でスタートすることにしました。引き続き募集しますのでよろしく。でも昨年度のスタッフの原稿で未掲載のものもあり、進行中の企画や原稿が盛りだくさんで、うれしい悲鳴です。

◆なお前号で予告していた帝塚山高校スタッフの「職業人にインタビュー」は、編集の都合により次号に掲載させていただきます。執筆者ならびに読者の皆様に深くお詫びします。



高校生の人権広報誌

“Freedom” 第4号 (2010年10月11日発行)

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1

奈良県解放センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託をうけています。